



# 旭自治会 だより

令和5年7月3日 第64号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: [kameoka-asahi.com](http://kameoka-asahi.com)

## 7月 夏の日思い出

旭町の水田が夏の日差しに映えて、一面の濃い緑は一年を通じての、この里の最も美しい時季の一つだと思います。この頃の夏の気候は極端に暑く、40度という気温に驚くこともなく酷暑の季節が始まります。夏至が過ぎて7月土用の頃暑さが一段と厳しくなり、真夏本番、健康管理に十分なご注意を願いたいものです。

さて、今年は3年間続いたコロナ感染症拡大対策も緩和の状況となり、各地の夏の催事も以前のように再開されることとなってきました、旭町においても3年間中止していた「納涼ふれあい祭」開催のため準備を進めております。多くの町民の皆様のご参加をお待ちしております。

また、子供たちにとっても夏休みの期間、これもコロナ禍で活動が制限中でしたが、今年は屋外での楽しい夏休みの期間を十分に満喫してほしいものです。川東学園では6月末から、プールでの授業が始まっており、水泳の指導が始まっているようです。これもコロナ禍3年間の影響で全く泳げない子供がたくさんおられるとのこと。指導される先生方によろしくと応援したいものです。

そういえば、真夏、私どもの子供の頃はどうかふと思い出しました。あの頃はもうプールはありましたが、近所の川や用水池でも泳いでいたことを思い出しました。本当に待ち遠しい夏休みでした、日々山や川で遊び、8月末に宿題を慌ててしたこと、今は本当に懐かしいです。この夏休み一番楽しみにしていたのは、親とともに地域で出かける海水浴でした。地区ごとにバスを仕立ててそう、高浜の海水浴場に行くのが毎年の行事でした。バスに乗車し、地区内のお店のアイスに乗せて出発でした。その頃はまだ道路の舗装がされていない場所が多く、土ほこりで周辺の家屋や木々が、真っ白になっていたのを思い出します。バスが高浜に到着し、着替え休憩場所は毎年、近くのお寺だったと覚えています、毎年多くの子供を良く受け入れていただいたものかと、今更ながら感謝を憶えます。(調べてみますと臨済宗 長福寺だったのではないかと思います。このお寺の庭にあった井戸で体を洗ったと思い出します。「その水のなんと冷たかった事」)

この頃の海水浴はどのような雰囲気でしょうか。

先日、川東学園の学校運営委員会で、7月の課外事業の計画をお聞きしました、5年生が若狭の海で授業をされるようです。子供たちが楽しい夏の思い出を経験されることをお祈りします。

60年も前のことを思い出して書いてしまいました。皆様の「夏の日思い出は?」

日本列島、これから猛暑が予想されます、どうぞお体ご自愛ください。

旭町自治会長 吉川 肇



## 地域懇談会始まる

7月31日（月）旭町地域懇談会が行われます。課題としては下記の内容で行います。

（時間が1時間半で2～3の課題で懇談します。残りは文書での回答です。）

- 1、 高齢者移動支援事業について
  - 2、 地域の防災対策について
  - 3、 地域の環境問題について
  - 4、 旭町の地域活性化について
- を予定しています。

### 奈良市田原地域の方が研修に

令和5年6月10日（土）奈良市田原地域自治協議会の4名の方が、「旭サポートカー」の研修のために旭町を来訪されました。この研修では、旭サポートカーを立ち上げたきっかけや具体的な実施方法について説明しました。また、京都府や亀岡市からの支援についてもお話しさせていただきました

奈良市田原町の役員の方からは、地域の高齢者の移動支援に特化した計画が綿密に立てられ、実行されていることに感動されました。特に女性の活躍に関心を持たれました。女性が運転手として活躍し、高齢者の安全な移動をサポートしています。また、受付や窓口にも女性が関わっており、利用者にとって心強い存在となっています。この女性の活躍は、地域の多様性とジェンダー平等の実現に大いに貢献していると評価されました。柔軟な対応が可能となり、利用者の安心感と満足度が向上していると感じられたとのことです。

奈良市田原地域の方も悩みは同じ「高齢化」等の同じ悩みを抱えておられました。色々なお話が聞けてとても勉強させて頂きました。



## 7月行事予定

- ・ 7月 2日（日） 創業祭 午前9時～ なごみの里あさひ
- ・ 7月 3日（月） ・ 20日（木）  
敬老乗車券 販売 午後1時30分～午後3時 旭コミュニティセンター
- ・ 7月 4日（火） 亀岡市議会議員 旭サポートカー研修  
午後1時30分から 旭コミュニティセンター
- ・ 7月 22日（土） 令和5年度 第9回旭町納涼ふれあい祭り（別紙参照）  
午後6時30分～ 旭コミュニティセンター
- ・ 7月 31日（金） 地域懇談会 午前9時～ 旭コミュニティセンター



# 「旭の未来ロードマップ『夢絵巻』 取材第1弾 できたらいいなあマップ」

令和5年6月10日（土）奈良市田原地域の方々の訪問で、彼らが「夢絵巻」という取り組みに感銘を受け、詳細を知りたいとの思いを抱かれました。そのため、以前の資料を取り出し、調べてみました。

「夢絵巻」は平成15年から平成17年にかけて取り組まれたものでした。当時の自治会は、農村工学研究所と京都大学との協力を得て、旭町の未来を考える街づくりに取り組んでいました。先進地域の視察やワークショップを通じて町民の意見を集め、未来のマップである「旭町散策マップ できればいいなあ編」を作成しました。これが後に「夢絵巻」としてまとめられることとなりました。

最初に行われた取り組みは、当時の小学生たちに「旭町をどんな街にしたいか？」という質問から始まりました。その結果をもとに「旭町の魅力マップ」が作られ、さらに「あさひこんなまちだったらマップ」が作成されました。これらのマップは、旭町の魅力を保ちつつ、子供たちの希望に基づいたまちづくりの方向性を示しています。自治会の講堂にも大きく掲示されています。



先進地域の視察やワークショップを通じて町民の意見を集め、未来のマップである「旭町散策マップ できればいいなあ編」を作成しました。



昨年には、「旭をつくる なごみの里あさひ 10の提案」として、亀岡市やかめおか霧の芸術祭の関係者が考えた提案が「旭夢絵巻」の第2弾として提言されました。この「できたらいいなあマップ」には、今でも皆さんの思いが綴られています。

また、当時のアンケート結果やワークショップの意見

集には、女性の力が重要であるという意見が多く寄せられていました。地域に密着した生活を送る女性たちの積極的な参加が求められていました。奈良市田原地域の方々も、女性の地域参加の重要性を強調されました。この時代から、高齢者対策の必要性やまちの活性化に関する議論が「夢絵巻」の具現化へと繋がっていったことが分かります。

次回は「夢絵巻」の具現化について調べて説明させていただきます。お楽しみにお待ちください。

